

管内経済情勢

(平成22年7～9月)

平成22年10月
富山商工会議所

概況

全国の動向

内閣府が9月10日発表した2010年4～6月期の国内総生産（GDP）の改定値は、物価変動を除いた実質で前期（2010年1～3月）比0.4%増、年換算で1.5%増となり、速報値（0.1%増、年率0.4%増）から上方修正された。プラス成長は3期連続。

日銀が9月29日に発表した9月の短観によると、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス8となり、6月の前回調査（プラス1）から7ポイント改善し、6期連続の改善となった。ただ、3ヵ月後の先行きはマイナス1と悪化し、先行きDIが現状に比べて悪化するの、リーマン・ショック直後の2008年12月調査以来7期ぶりになる。

また、日銀金沢支店が同日発表した北陸3県の短観は、製造業が15ポイント改善しプラス1となった。6期連続の改善で、プラスに転じたのは2007年12月調査以来、2年9ヵ月ぶり。また、非製造業は1ポイント改善のマイナス22となり、全産業では8ポイント改善のマイナス12だった。

富山地区の動向

調査対象のうち、今期（H22年7～9月）の「売上高」DIはプラス33.3で、前期比43.3ポイント、前年同期比で96.3ポイントの大幅な改善となった。また、「仕入単価」DIもプラス32.1で、前期比14.2ポイント、前年同期比28.4ポイント改善した。一方で、「売上単価」DIはマイナス36.7で、前期比で13.3ポイント改善したものの、前年同期比は0.4ポイントの改善にとどまり、依然デフレの傾向は続いていると見られる。

「業況」DIはプラス6.7で、前期比で6.6ポイントの悪化となったが、前年同期比では25.2ポイントの改善となっている。また「来期の見通し」はDIがプラス13.8となり前期比で7.1ポイント、前年同期比で24.9ポイント改善した。

業種別では、製造業においては政府の経済政策の効果もあり、主力の自動車関連用部品、電子部品が前期に引き続き好調だが、設備投資向けの工作機械やロボット、産業用機器関連は未だピーク時の5～6割程度しか回復していない。

大型小売店・専門店では、エコカー補助金対象の自動車、家電エコポイント対象の薄型テレビ、家庭用エアコンの販売が売上げを牽引し、家庭用エアコンにいたっては住宅エコポイントや夏の猛暑の影響もあり、大手量販店では取り付け工事がピーク時で2週間待ちとなるなど、大きく売上げを伸ばした。

また、猛暑の影響は一部の商品で特需をもたらしたものの、秋物衣料の販売不振や、野菜・果物など食料品の生育に影響が出るなど、マイナス要因を挙げる声も多かった。

付帯調査

主要調査に付帯して「景気の現状をどう見ているか」を尋ねたところ、『大きく回復している』が3.4%で前期比3.5ポイント減少し、『緩やかに回復している』24.1%で4.3ポイント減少した。

逆に『緩やかに後退している』が前期比6.9ポイントの増加となった。

1. 生産活動

一般機械

自動車関連機械を中心にアジア圏への輸出が好調だが、円高による為替差損が生じるため、海外企業との価格競争力が低下している。また、設備投資関連機械は回復が鈍い。

電子部品

家電エコポイント対象商品である薄型テレビと高機能携帯電話（スマートフォン）の関連部品が好調。

輸送機械

エコカー補助金制度に支えられ四輪用エンジン部品などが好調な上、輸出が堅調。しかし円高の影響で「もの」は動いているが採算はとれていないのが現状。

プラスチック

動物ペット産業が好調なため、容器類に好影響が出ている。全体としては、原材料を輸入品に切り替えるなどして円高のメリットは出ているが、プラスチック市場における需要が停滞傾向にあるため、採算的には厳しい。

医薬品

ジェネリック医薬品、医療用医薬品関連は依然好調だが、新薬、配置用医薬品の不振が続いている。

紙・紙加工

カタログ・チラシなど商業印刷向けの洋紙は停滞が続いている。堅調な医薬品関連の中でも医療用の包材、パッケージ用の白板紙はさらに好調に推移している。

リース

医療品製造、病院・介護関連業界の基幹システム更新需要が目立ち、その設備投資は堅調に推移している。建設・土木業、運送業関連の需要は依然低調。

物流 大口ロットの設定を緩和し、中・小口での引き受けを進めている。1件あたりの単価は低いが、件数を増やすことが今の市場に合致している。海外物流に円高の影響が出始めている。

電力使用量 7月、8月の大口電力使用量は前年同期比でそれぞれ24.5%増、27.1%増となる。主要産業である製造業が、エコカー補助金制度の影響で工場をフル稼働させたうえ、猛暑の影響もあり、大幅な増加となった。

2. 消費関連・物価・その他

大型小売店・専門店

県内の大型店の売上高（百貨店＋スーパー、既存店／中部経済産業局調べ）は、既存店ベースの前年同月比で、7月は99.2%、8月は100.2%と回復傾向。

百貨店では、食料品や家庭用雑貨など身近な商品で回復傾向が見られ、下げ止まり感が出てきた。季節要因もあるが高額商品は依然厳しい状況。

ショッピングセンターでは、猛暑による影響で好・不調を合わせると売上減少要因の方が多く、9月末には、たばこ価格値上げ前の駆け込み需要なども見られた。

ファッションビルは水着など夏物衣料に加え、紫外線を防ぐUV関連（衣料品、化粧品）が好調に推移したが、秋物衣料の出足が鈍い。また、すべてこが若者にうけ、ヒット商品となった。

家電は好調なエコポイント対象商品の中でも家庭用エアコンが猛暑の影響で特需となった。また、スマートフォン市場においては米アップル社の 아이폰がヒット商品となり、携帯電話の売上を牽引している。

青果卸

猛暑により、果物・野菜の収穫に若干の遅れがあった。傷や痛み、変形の商品も流通量は少ないが、消費者に以前よりも抵抗なく受け入れられた。また、円高の影響で輸入品が安く手に入るようになったが、天候不順により、国（県）産品の生産が不安定で、更に価格差が出てしまうという状況になりつつある。

旅行・宿泊・飲食

旅行は円高の影響で海外旅行の格安プランが堅調に伸びた。

ホテルは宿泊が医療関係の学会、コンベンション等の大口の団体頼みの状態。猛暑の影響でビアガーデン・ホールは久々の活況を呈した。

| | |
|-------------|---|
| 情報関連 | システム・イングレーション分野（ハードを伴うシステム開発・販売）は需要が低調なうえ、円高など景気の先行き不透明感から設備投資が抑制されるため、上昇は望めない状況。 |
| 新車販売 | 県内の新規自動車登録台数（軽自動車を除く）はエコカー補助金終了前の駆け込み需要で、7月、8月が前年同月比117.2%、137.8%、終了した9月は94.8%であった。3カ月累計では113.5%となった（富山県自動車販売店協会調べ）。軽自動車登録届出台数は前年同期比で113.2%（富山県軽自動車協会調べ）。 |
| 建設工事 | 富山市内の新設住宅着工戸数は、前年同月比で7月105.3%、8月115.1%。政府の追加経済政策である住宅エコポイント制度の効果が表れた形となった。県内の公共工事受注は前年同期比で96.2%だった（富山県・東日本建設保証（株）富山支店調べ）。 |
| 物価 | 富山市の消費者物価指数（平成17年＝100）は、7月98.0、8月98.5と全国平均より各月マイナス1.0ポイント以上の開きがる。 |
| 原油価格 | 原油先物価格（ニューヨークWTI・月平均）は、7月＝76.38ドル/BL、8月＝76.67ドル/BL、9月＝75.55ドル/BL。 |
| 為替相場 | 円/ドル相場（東京市場/中心相場・月平均）は、7月＝87.72円/ドル、8月＝85.47/ドル、9月＝84.38/ドルと依然、円高傾向が続いている。 |

3. 労働

| | |
|---------------|---|
| 有効求人倍率 | 富山公共職業安定所（ハローワーク富山）管内の有効求人倍率（季節調整値）は、7月0.61、8月0.65で低水準も、4ヶ月連続で改善。 |
|---------------|---|

4. 企業倒産

| | |
|----------------|--|
| 県内の企業倒産 | 当期（7～9月）の県内の企業倒産（負債総額が1,000万円以上/東京商工リサーチ調べ）は、件数は前年同期比14件減の29件、負債総額は、74.6%減の58億27百万円となった。 |
|----------------|--|